

【テーマ】

- ① 全国まちづくりの事例紹介と展望
- ② 総合的野生動物管理プロジェクト
- ③ 富士見町における農地保全の調査研究
他
(東京農工大学大学院)
- ④ ハケ岳観光圏における民間観光事業との
関わり方

⑤ 特産物の販売等

(富士見町アンテナショップ「ポンテ」)
南きよさと・こぶちさわ・信州葛木
宿の各道の駅

【調査日】

平成23年10月11日～12日

〓 東京農工大学大学院にて〓

教授の説明によると、農村地域の衰退は現実には否定できない事実であるが、『農村再生は現代日本再生の条件』であり、私たちはすでに歴史の転換点に立っている。そして、3・11の大震災が決定的な後押しになっているということである。

第8次エネルギー革命の全ての鍵を農村が握る21世紀でもある。「再生エネルギー＋食糧＋自然＋文化＋人間性」と地球危機、国内危機打開の資源を持つのは農山村であり、「社会システムの大変換」「政治理念の大変革」中央主権から地域主権へと、この流れは、ヨーロッパでは既に始まっている。21世紀、農村が地球を救う時代となる。

【総合的野生動物管理システム】

このシステムは獣と人間のかかわり合いについて、科学的に分析し双方の価値観を

両立し共存させてゆくプロジェクトである。基本は人が獣に対し餌を与えないこと、この点を私たちも実行しなければならない。

【富士見町における農地保全の調査】

中山間地区の少子高齢化、獣害による農家の営農意欲の低下等により、耕作放棄地が年々増加している。富士見町では神戸地区を対象に、獣害に強い効果的な土地利用計画とその実現の可能性について、調査研究をされているとのことである。

【ハケ岳観光圏における民間観光事業との関わり方】

北杜市・富士見町・原村をエリアに、ハケ岳観光圏整備推進協議会が滞在型観光地を目指し運営を行っている。

今年度も多くのイベントを実施、富士見町は3市町村の中心にあり、県を越えて観光地を盛り上げるためにも、行政・議会の努力、協議会及び町担当者との定期的な意見交換の必要性を感じた。

各道の駅では地域の特産品の販売に努力しているようだが、他県産商品もあり、販売商品では、ハケ岳観光圏の特色や産物の陳列に工夫がほしいと感じた。

【特産物の販売等】

小田急線永山駅前「ポンテ」は、狭いながらも品数が多く、商品棚もきちんと整理されている。店員の対応が良く、商品販売に工夫を凝らしている。最近では富士見産の人形『まりこ』の売れ行きが良いとのことである。



地下水を利用したヒートポンプの実験をしており、過度の使用が地温や地盤に与える影響を調査中。

(東京農工大)

NPOが運営する「ポンテ」
富士見町の特産品が店内の70%を占める。最近では、人形『まりこ』が特に人気とのこと。(小田急線 永山駅前)



農業の常識を覆すブルーベリーの2期作を研究中。20年以内に実用化できれば…と研究者の話。

(東京農工大)